

◎ (配点 ①・④・⑤・⑦…各2点、②・③…各1点、④・⑤・⑤④・⑧…各6点、その他…各4点)

1	
①	登校
②	栄養(營養)
③	祝賀
④	貨物
⑤	青雲
⑥	清算
⑦	魚群
⑧	洋

2
① 花
② 水
③ 風
④ 月

3
① ス
② リ
③ ミ
④ ラ

4		
Ⅱ		Ⅰ
子ども	“	子ども
でも	こ	とは
分	に	大人
か	疑問	にと
る	を	投げ
よう	な	か
な	け	当たり
やし	く	り前
い	る	
表現		

2
A
イ
B
ウ
C
E
D
ア
3
E

4		
く	ほ	目
相	う	の前
手	を	に
の	見	自分
こ	つ	め
と	て	とは
に	黙	異
注	っ	なる
意	が	聞
が	向	く
向	い	か
く	て	らい
か	い	と
ら	る	、
。		否
		応
		な
		の

(同意可)

5				
た	て	く	、	哲
言	く	、	自	学
葉	れ	ま	分	対
で	て	た	の	話
語	い	、	意	で
ら	る	お	見	は
な	と	互	を	評
い	実	い	率	価
と	感	が	直	や
い	で	向	に	ダ
け	き	自	メ	
な	る	合	信	出
い	の	い	を	し
と	で	自	持	を
思	、	分	っ	さ
う	き	の	て	れ
か	ち	話	言	な
ら	ん	を	い	い
。	と	聞	や	の
	し	い	す	で

(同意可)

6
イ
7
イ

5
1
イ
2
E
3
ア

4		
て	つ	仕
し	く	事
ま	、	が
っ	昨	上
た	日	手
。	は	く
	会	い
	社	か
	に	ず
	行	体
	か	力
	ず	的
	に	に
	実	も
	家	精
	に	神
	帰	的
	っ	に
	て	も
	き	き

(同意可)

5
ウ
6
E
7
A
ウ
B
イ

8	
な	亮
家	介
事	を
を	ち
必	ゃ
死	ん
に	と
克	迎
服	え
し	ら
た	れ
こ	る
と	よ
。	う
	に
	、
	母
	が
	苦
	手

(同意可)

① すべて四年生までに習う漢字から出題した。①は「学校に行くこと」。「登」のはつがしらの形を正しく書こう。②は「栄」の上部の真ん中を縦にまっすぐにしないこと。③は「祝」の部首を「ころもへん」にしないこと。④は「貨」と「貸」の形が似ているので注意しよう。⑤は「青雲の志」で「功名を立て、立身出世をしようとする志」のこと。⑥は「精算」などの同音異義語に注意すること。⑦は「群」を「郡」と書かないように気をつけよう。形は似ているが、字の意味は全く異なる。⑧は「洋の東西を問わず」で、「東洋、西洋どちらでも」「世界中」という意味である。

② 基本的なことわざから出題している。①は「口に出して言わないほうが面白いもあり、差し障りもなくてよい」という意味。②は「何の役にも立たないこと」のたとえ。③は「危険がせまっていて今にも滅びそうなこと」のたとえ。④は「二つのものがひどく違っていること」のたとえ。同意の言葉に「提灯につりがね」がある。

③ 「ート」で終わる外来語を出題した。①は「段階的に増大したり激化したりすること」。②は「繊細なさま」「微妙で、細心の注意を要するさま」。③は「候補に指名すること」。④は「個人的」「私的」。

④ 1 「子どもが対話に参加することのよさ」を気にしながら続きを読んでいこう。すると、第四段落と第五段落に一つ、第六段落と第七段落にもう一つの理由が並列して書かれていることに気づけるだろう。段落冒頭の「まず」や「また」を見のがしてはいけない。設問に用意された空らんの前後の表現もヒントにしていこう。

2 Aは直前に「子どもが対話に参加することのマイナスの印象」が書かれていて、直後に「子どもが対話に参加することのプラス面」の説明がされているので「しかし」が入る。Bは直前の内容を受けて自然なつながりになっているので「だから」が入る。Cは前が「なかなか答えない」で後が「せいぜい単語で答えるだけ」であり、このどちらかということと「あるいは」が入る。Dは直後が小学校の具体例になっているので「たとえば」が入る。

3 指示語の問題ではまずその指示語をふくむ一文を読んで内容をつかもう。「子ども」が「未熟」であるがゆえに「分からない」ことである。それにあてはまる内容がエになる。

4 直後に「やはり」という書き出しで、筆者が考えた理由が書かれている。

5 傍線部が二文にまたがっている。一文目と二文目のそれぞれの理由を答える必要がある。これも問1と同じく続きを読んでいけば、一つめの理由が二つ後の段落に、もう一つの理由がその後の段落に書かれている。またしても並列の「また」が段落冒頭にあることに注意してほしい。

6 「正しくない」ものを選ぶことに注意すること。前半でも子どもと大人が対話することをすすめているし、最後の段落でも「いろいろな年齢、世代、職業、境遇の人と対話すること」のよさを述べている。

7 Aは「どんな大人にとっても」とすると確実に間違いである。そもそも「退屈で得るものがない」ということ自体が間違いだと筆者は指摘している。ウは本文に書いてあるが、筆者の考えではなく、一般的な考えである。エは「哲学対話」ではなく、「学校」での話である。

⑤ 1 次の段落に理由が示されている。Aは「両親」がおかしい。ウは本文には書かれていない。エは「亮介に愛情を注ぐことがなくなっってしまった」がおかしい。

2 「中川」については語注でどういう人物か説明されている。それをふまえてこのときの悦子の様子と結びつければエが適切であることがわかる。中川に対して腹を立てている行動なのでAは違う。イのように「納得して受け入れている」とはこの時点では感じられない。ウの「一緒に屋根を直してくれた」という発言は――線②よりも後なのでおかしいし、家に入っていること自体に腹を立てていることから後半もおかしい。

3 本文の終盤で、悦子が家事を克服し、「自分が帰るのを待っていてくれた」という事実が明らかになる。悦子も亮介と一緒に暮らしたかったのである。それをふまえるとウやエではないことがわかる。イは「興奮している」というのがおかしい。

4 会社から電話がかかってきて、何がばれるのかと考える。続きを読んでもいけば、亮介は昨日無断欠勤をしたことがわかる。それで亮介に連絡がつかないため、会社から実家に電話がかかってきたのである。それをおさえた上で、会社を無断で休んだ理由まで書くといいただろう。

5 この問題は根拠がはっきりしている。Aは直後に書いてあるが、これは亮介が考えた内容であり、悦子の気持ちではない。その後で悦子自身の口からクスノキを切っている理由が語られる。

6 「ふさわしくないもの」を選ぶことに注意すること。クスノキが亮介を苦しめたというのは悦子の認識にはない。

7 Aは直前の「成長が遅いけど、最後に立派な枝ぶりになる」からわかる。Bは迷いが吹っ切れて新しく出直そうとしている亮介の気持ちをイメージしよう。

8 同じ段落にその内容は書かれている。まずおさえるポイントは「母が苦手だった家事を克服した」ということである。ただ、それにはどういう意味があるのかということにまでふれておくべきだろう。「息子を迎えるため」「息子が帰るのを待っていた」ということである。